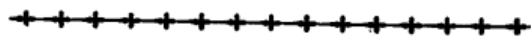
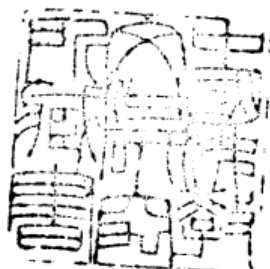


大新 正修 大藏經索引



第四十二冊
續 諸 宗 部
三上



新文豐出版公司 影印

大正修 大藏經索引 第42冊 續諸宗部三上

中華民國81年4月台1版

精1冊基價15.7元

編集者：大藏經學術用語研究會

發行者：高 本 釗

發行及印刷所：新文豐出版公司

公司：臺北市雙園街96號

電話：3060757・3088624

門市部：臺北市羅斯福路一段20號8樓

電話：3415293・3415294

台北郵政 3643 信箱

登記證：局版臺業字第0649號

郵政劃撥：01004426號

ISBN 957-17-0447-4 (套)

ISBN 957-17-0458-X (第四十二冊：精裝)

INDEX TO THE TAISHO TRIPITAKA

No. 42 Zoku-shosyū-bu III

vol. I

Research Association for the Terminology

of the Taisho Tripiṭaka

1981

出 版 說 明

本「大正藏續編索引」第三二至四八冊係根據大正新修大藏經續編第五六至八五冊所作諸內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學——立正、大谷、大正、龍谷、駒澤、高野山等負責編撰本索引，深獲各界好評，特此推介學林，以公諸讀者。

凡其五五冊正編部份所作三一冊索引，業於民國六十九年景印刊行，屢經讀者多方詢問：何時得以全部出齊，以利學者應用；經數年來考核評量，並得鄰國日本諒解，爲使此國際性工具書，俾以完整面目提供學者使用，特此全數景印，有了這部索引，任何問題都可以迎刃而解，可知此部索引存在價值是何等珍貴，謹此說明。

本公司編輯部 謹啟壬申年元月

簡介研讀大藏經的工具書

楊白衣

～法寶總目錄與大藏經索引之功用～

研讀大藏經是每一位佛子嚮往的終身大事，不研究則已，若想研究，則非賴特殊工具書莫辦。過去研究佛學，一、靠辭典，二、靠年表，三、靠經書目錄，但這些工具書已無法收到事半功倍之效，勢必另覓他途解決。

日本學者對此提供了最有力的工具書二種，其嘉惠學界之深，誠令吾人嘆為觀止！此二種工具書，一曰『法寶總目錄』，一曰『大藏經索引』。案此二部書之主要功用如下：

一、法寶總目錄之功用可查下列事項：

- (一)知著者而不知其著作。
- (二)知經書而不知著者、譯者。
- (三)知經書而不知有無異譯本。
- (四)知經書而不知何代、何年、何人之著譯。
- (五)知經書而不知內容章節。
- (六)知經書而不知在何處（第幾冊、幾頁）
- (七)知經書而不知有無前人之註解。
- (八)查著譯者之籍貫、俗姓、生卒年。
- (九)查經書之原名、漢譯名、日譯名。
- (十)查經書在各種版本之歸屬。

二、大藏經索引之功用有下列事項：

- (一)查法相、名數之所在以及定義等。
- (二)查人名、地名等所有固有名詞之原名，出現次數以及同名異人。
- (三)查某一術語在某一部經書中之用例、定義、異名及在各宗派中之觀點。
- (四)查五十種分類項目（詳如下表）之所在以及佛教的人生觀、宇宙觀。
- (五)查典籍之解題以及在國際上現今的研究成果。
- (六)查每冊藏經之詳細內容以及佛教之觀點。

『法寶總目錄』共三巨冊，除檢查上述各種要目之外兼有經錄的性質，不但收錄了各版本藏經，如『明藏』、『卍藏』、『卍續藏』等目錄，以及名庫所藏之書目，且有智旭大師的『閱藏知津』與陳實的『大藏一覽集』，可查每一部經律論（一七七三部）之解題、音義、傳記、疏鈔、目錄、纂集、護教、序讚、詩歌等，極為方便。

『大藏經索引』是根據日本『大正新修大藏經』（中華文化會館及新文豐出版公司影印之大藏經）前五十五冊所作之內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學負責編撰的索引。其索引之計劃工作本以名學者小野玄妙博士（佛書解說大辭典作者）為中心，從民國三十二年開始著手，並已刊行了阿含部、目錄部、法華部各乙冊。這個計劃後來由於博士之逝世和第二次世界大戰之影響而不得不告中斷。直到民國四十五年由大谷大學、高野山大學、駒澤大學、大正大學、立正大學、龍谷大學等六所佛教大學重新提議，計劃把『大正新修大藏經』中之印度、中國、日本等三國選述之部分共計八十五冊之內容作成索引四十八冊以利學者應用。這六所佛教大學合議之結果，組成大藏經學術用語研究會，對內容的分類項目先行檢討後，決定以下列的原則展開工作。

一、以小野玄妙博士之計劃為藍本，分為分類項目別索引、音次索引、字劃索引、四角號碼索引、梵語索引、使其成為國際性之工具書。

二、用語之選擇，以漢譯大藏經為準，以總合研究之方法，每頁選出五十個學術用語，而把它配於五十種分類項目。五十種分類項目，以印度撰述部分為中心，而每項目之下再細分若干細目，其詳目如下：

- 1.教 說：經典分類名目（三藏、九分教、十二分教等）……a通說 b三藏 c九分教 d十二分教
- 2.教 判：有關大乘小乘，一乘三乘，密宗及各宗判教之用語……a通說 b大小乘 c一三乘 d各說
- 3.教 理：表示教理之用語如三法印、空、中、緣起、佛性、如來藏等……a通說 b各說
- 4.法 相：有關構成宇宙萬象的現象與本體之用語，與五位諸法有關連的名稱……a通說 b色法 c心法 d非色非心法
- 5.惑 業：有關說明輪迴的惑障，業道之用語（除緣起、因果）……a通說 b惑 c業 d苦
- 6.行 位：表示修行道位及得果的有關斷惑證理之用語……a通說 b凡夫位 c聲聞緣覺位 d菩薩位

- 7.戒 律：有關戒律之種類、細目、持犯等之用語……a通說 b各說
- 8.禪 觀：有關一般禪定、三昧、觀法之用語……a通說 b禪定 c觀法
- 9.世 界：有關三界、六道等之用語……a通說（包括三界六道，二十五有）b天 c
大 d地獄 e餓鬼 f畜生 g阿修羅 h其他
- 10.佛 土：有關佛的德性、身土、佛名、諸尊之用語……a通說 b德性 c佛身 d佛
土 e佛名 f諸尊
- 11.人 名：按照身分分類之固有名詞……a比丘比丘尼 b優婆塞優婆夷 c仙人 d外
道 e菩薩 f其他
- 12.教 派：有關學派、宗派之用語……a學派 b宗派
- 13.教 團：有關僧伽、教團之法規及僧階之用語……a通說 b法規 c僧階 d其他
- 14.寺 院：有關寺院之用語……a通說 b各說
- 15.信 仰：有關各種信仰之用語……a通說 b各種信仰（包括稱名唱題等）
- 16.儀 禮：有關佛事及僧眾等一般儀式、作法之用語……a通說 b佛事 c作法 d僧
眾行儀
- 17.事 相：有關密宗四度加行、灌頂行法之用語……a通說 b行法 c四度加行 d護
摩 e灌頂 f其他
- 18.曼 荼 羅：有關密宗行法修行之本尊曼荼羅之用語……a通說 b各說
- 19.印 契：有關密宗於行法時結印契（手印）之用語……a通說 b各說
- 20.陀 羅 尼：有關陀羅尼之用語……a通說 b真言（純密） c其他
- 21.外 教：有關婆羅門教，印度諸學派、儒教、道教、神道之用語……a通說 b婆羅
門 c印度諸學派 d儒教 e道教 f神道 g其他
- 22.咒 術：有關幻化、咒術之用語……a通說 b幻化 c咒術
- 23.天文曆數：有關天文、時節、方位、算數、度量衡之用語……a通說 b日月星宿 c氣
象 d時分 e歲月 f宿曜曆及吉凶日 g方位 h算數 i度量衡
- 24.地 理：有關地理、地名之用語……a通說 b地名 c山名 d水名 e園林名
- 25.動 物：有關動物之用語……a通說 b各說
- 26.植 物：有關植物之用語……a通說 b各說
- 27.鑛 物：有關鑛物之用語……a通說 b各說
- 28.物 理：認為與物理，化學有關之用語……a通說 b色 c形狀 d聲音 e光熱
- 29.論 理：有關因明，論理學之用語……a因明 b論理。

- 30.心理：認為與心理學有關之用語
- 31.倫理：有關倫理、道德之用語（例如恩義等）
- 32.教育：有關教育之用語。
- 33.生理衛生：有關生理與衛生之用語……a通說 b身體 c出生 d生理 e衛生
- 34.醫術藥學：有關醫術、藥學之用語……a通說 b療法 c病名 d藥
- 35.民族：有關民族、種族之用語……a民族 b種族 c其他
- 36.社會：有關家族、身分、階級等之用語……a通說 b家族 c身分 d階級 e其他
- 37.政治經濟：有關政治、法制、軍事、經濟之用語……a通說 b行政 c法律 d財政 e軍事
- 38.產業：有關一般職業之用語……a通說 b職業
- 39.風習：有關飲食、衣服、風俗之用語……a通說 b食物 c調味料 d飲料 e衣服 f裁縫 g風俗 h娛樂
- 40.言語：有關語言之種類、文字、文法、翻譯之用語以及梵語，巴利語等之音譯名詞……a通說 b種類 c文字 d文法 e翻譯 f音譯名詞 g其他
- 41.名數：以數目合成之用語
- 42.典籍：有關一般典籍之用語（包括品名）
- 43.紀年：有關年號、干支、王朝等之用語
- 44.文藝：譬喻、因緣、詩頌等與文藝有關之用語……a通說 b本生 c因緣 d譬喻 e文疏 f詩偈
- 45.音樂：有關音樂之用語……a通說 b音聲律呂 c調子 d聲譜 e典目 f樂器。
- 46.建築：有關建築之用語……a通說 b種類 c規構 d技法 e堂舍
- 47.圖像：有關佛、菩薩等的繪畫、彫刻之用語……a通說 b繪畫 c彫刻
- 48.工藝：有關美術工藝之用語……a通說 b題目 c形像 d素材 e技巧
- 49.器物：有關器具、佛具之用語……a通說 b佛具 c器具
- 50.雜語：不屬於上述四十九項目之詞彙

六家大學的分擔情形，到目前為止已出版者如下：

甲、印度撰述部

索引第一冊	阿含部	駒澤大學	大正藏第一、二冊
索引第二冊	本緣部	高野山大學	大正藏第三、四冊
索引第三冊	般若部	大正大學	大正藏第五～八冊

索引第四册	法華涅槃部	龍谷大學	大正藏第九、第一二册
索引第五册	華嚴部	龍谷大學	大正藏第九、一〇册
索引第六册	寶積部	大谷大學	大正藏第一一、一二册
索引第七册	大集部	龍谷大學	大正藏第一三册
索引第八册	經集部(上)	駒澤大學	大正藏第一四、一五册
索引第九册	經集部(下)	大谷大學	大正藏第一六、一七册
索引第一〇册	密教部(上)	高野山大學	大正藏第一八、一九册
索引第一一册	密教部(下)	大正大學	大正藏第二〇、二一册
索引第一二册	律部(上下)	駒澤大學	大正藏第二二~二四册
索引第一三册	釋經論部中觀部	駒澤大學	大正藏第二五、二六、三〇册
索引第一四册	毘曇部(上)	立正大學	大正藏第二六~二八册
索引第一五册	毘曇部(中)	龍谷大學	大正藏第二六~二八册
索引第一六册	毘曇部(下)	大谷大學	大正藏第二九册
索引第一七册	瑜伽部(上下)	立正大學	大正藏第三〇、三一册
索引第一八册	論集部	龍谷大學	大正藏第三二册

乙、中國選述部

索引第一九册	經疏部(一)	大正大學	大正藏第三三、三四册
索引第二〇册	經疏部(二)	大谷大學	大正藏第三五、三六册
索引第二一册	經疏部(三)	龍谷大學	大正藏第三七、三八册
索引第二二册	經疏部(四)	高野山大學	大正藏第三八、三九册
索引第二三册	律疏部論疏部(一)	龍谷大學	大正藏第四〇、四一册
索引第二四册	論疏部(二)	大谷大學	大正藏第四二~四四册
索引第二五册	諸宗部(一)	立正大學	大正藏第四四、四五册
索引第二六册	諸宗部(二)	大正大學	大正藏第四六、四七册
索引第二七册	諸宗部(三)	駒澤大學	大正藏第四七、四八册
索引第二八册	史傳部(上)	大谷大學	大正藏第四九、五〇册
索引第二九册	史傳部(下)	龍谷大學	大正藏第五一、五二册
索引第三〇册	事彙部外教部	高野山大學	大正藏第五三、五四册
索引第三一册	目錄部	立正大學	大正藏第五五册

丙、日本撰述部

索引第三二冊	續經疏部(一)	立正大學	大正藏第五六、五七冊
索引第三三冊	續經疏部(二上)	高野山大學	大正藏第五八、五九冊
索引第三四冊	續經疏部(二下)	高野山大學	大正藏第六〇、六一冊
索引第三五冊	續律疏部	駒澤大學	大正藏第六二冊
索引第三六冊	續論疏部(一)	大谷大學	大正藏第六三~六五冊
索引第三七冊	續論疏部(二上)	龍谷大學	大正藏第六五、六六冊
索引第三八冊	續論疏部(二下)	龍谷大學	大正藏第六六~六八冊
索引第三九冊	續論疏部(三)	龍谷大學	大正藏第六八~七〇冊
索引第四〇冊	續諸宗部(一)	立正大學	大正藏第七〇、七一冊
索引第四一冊	續諸宗部(二)	大谷大學	大正藏第七二~七四冊
索引第四二冊	續諸宗部(三上)	大正大學	大正藏第七四~七七冊
索引第四三冊	續諸宗部(三下)	高野山大學	大正藏第七七冊
索引第四四冊	續諸宗部(四)	高野山大學	大正藏第七八、七九冊
索引第四五冊	續諸宗部(五)	駒澤大學	大正藏第八〇~八二冊
索引第四六冊	續諸宗部(六)	大谷大學	大正藏第八三、八四冊
索引第四七冊	悉曇部	大正大學	大正藏第八四、八五冊
索引第四八冊	古逸部、疑似部	駒澤大學	大正藏第八五冊

本索引之最大特色為站在最新的研究成果，以梵文、巴利文等音譯，固有名詞為中心，盡量地附註羅馬字拼音的原文。

『大藏經索引』用途之大，吾人得由五十種分類項目窺見一斑，於此不但可見佛法大海之廣闊無邊，且能證明佛法之多面性格，其內容有人文科學、社會科學、自然科學，應有盡有。以前吾人研究佛學總有望洋興嘆，不知所措之感，現在有了這部索引，任何問題都可迎刃而解，吾人可隨意查閱自己所欲了解之事項。於此不但可查出該用語在大藏經中的所在（頁數），亦可比照各宗派對該問題之看法。不像已往想查尋一個問題往往得花費許多時間，仍無法解決問題，至於想比較研究那就更困難了。例如：有關「業」與「輪迴」之問題來說，可將原始佛教、部派佛教、大乘佛教中較代表性之經論，如：阿含經、俱舍論、成業論、中觀論等之有關「業」與「輪迴」之記載，依索引的指示抄錄出來，然後加以研究原義以及發展的過程。這豈不是輕而易舉之事。在未有索引以前吾人必須讀破整部經典，方能洞悉該問題之所在，而且仍無法收集完整的資料。

又例如吾人想知道佛教對生理衛生的看法，對國家、社會的看法，則可隨便找一本索

引，查閱有關這些問題之所在，然後找某一部經論研讀。這在以前是做夢也想不到的事，由此可知這部索引之存在價值是何等地珍貴了。

總之，研究佛學『法寶總目錄』與『大藏經索引』為學者不可缺的重要工具書。

收 錄 典 籍 解 題

本巻は第74巻續諸宗部5の内 No. 2361『願文』から終り No. 2384『圓戒指掌』までの24部, 第75巻續諸宗部6の全巻25部, 第76巻續諸宗部7の全巻2部, 第77巻續諸宗部8の初め No. 2411『三昧流口決集』から No. 2424『眞朗上人法語』に至る14部, 即ち第74から第77巻に至る4巻の内, 天台関係の典籍總計65部についての索引である。

典籍番號	題 名	撰者名	No. 2382	新學行要鈔 (1 卷)	仁 空 撰
(第74巻 續諸宗部5)			No. 2383	菩薩圓頓授戒灌頂記 (1 卷)	
No. 2361	願文 (1 卷)	最 澄 撰			惟 賢 撰
No. 2362	守護國界章 (9 卷)	最 澄 撰	No. 2384	圓戒指掌 (3 卷)	敬 光 述
No. 2363	法華長講會式 (2 卷)	最 澄 撰			
No. 2364	長講金光明經會式 (1 卷)	最 澄 撰	(第75巻 續諸宗部6)		
No. 2365	長講仁王般若經會式 (1 卷)	最 澄 撰	No. 2385	胎藏界盧心記 (2 卷)	圓 仁 撰
		最 澄 撰	No. 2386	金剛界淨地記 (1 卷)	圓 仁 撰
No. 2366	天台法華宗義集 (1 卷)	義 眞 撰	No. 2387	蘇悉地妙心大 (1 卷)	圓 仁 撰
No. 2367	授決集 (2 卷)	圓 珍 述	No. 2388	妙成就記 (1 卷)	圓 仁 撰
No. 2368	諸家教相同異略集 (1 卷)	圓 珍 撰	No. 2389	眞言所立三身問答 (1 卷)	圓 仁 撰
No. 2369	定宗論 (1 卷)	蓮 剛 撰	No. 2390	胎藏界大法對受記 (7 卷)	安 然 記
No. 2370	一乘要決 (3 卷)	源 信 撰	No. 2391	金剛界大法對受記 (8 卷)	安 然 記
No. 2371	漢光類聚 (4 卷)	忠 尋 記	No. 2392	蘇悉地對受記 (1 卷)	安 然 撰
No. 2372	天台眞言二宗同異章 (1 卷)		No. 2393	觀中院撰定事業灌頂具足支分 (10 卷)	
		證 眞 撰			安 然 撰
No. 2373	圓密宗二教名目 (1 卷)	惠 鎮 撰	No. 2394	大日經供養持誦不同 (7 卷)	
No. 2374	宗要柏原案立 (6 卷)	貞 舜 撰			安 然 撰
No. 2375	天台圓宗四教五時西谷名目 (2 卷)		No. 2395A	教時諍 (1 卷)	安 然 撰
No. 2376	顯戒論 (3 卷)	最 澄 撰	B	教時諍論 (1 卷)	安 然 撰
No. 2377	山家學生式 (1 卷)	最 澄 撰	No. 2396	眞言宗教時義 (4 卷)	安 然 作
No. 2378	授菩薩戒儀 (1 卷)	最 澄 撰 圓 珍 註	No. 2397	胎藏金剛菩提心義略問答抄 (5 卷)	
					安 然 抄
No. 2379	傳述一心戒文 (3 卷)	光 定 撰	No. 2398	胎藏三密抄 (5 卷)	覺 超 撰
No. 2380	顯揚大戒論 (8 卷)	圓 仁 撰	No. 2399	三密抄料簡 (2 卷)	覺 超 撰
No. 2381	普通授菩薩戒廣釋 (3 卷)	安 然 撰	No. 2400	金剛三密抄 (5 卷)	覺 超 撰

No. 2401 東曼荼羅抄 (3 卷)	覺 超 撰	No. 2411 三昧流口傳集 (2 卷)	良 祐 撰
No. 2402 西曼荼羅抄 (1 卷)	覺 超 撰	No. 2412 總持抄 (10 卷)	澄 豪 撰
No. 2403 五相成身私記 (1 卷)	覺 超 記	No. 2413 四度授法日記 (4 卷)	嚴 豪 口記
No. 2404 胎藏界生起 (1 卷)	覺 超 記		
No. 2405 祕密壇都法大阿闍梨念誦生起 (1 卷)		No. 2414 了因決 (48 卷)	了 惠 撰
No. 2406 金剛界次第生起 (1 卷)	最 圓 撰	No. 2415 灌頂私見聞 (1 卷)	了 翁 撰
附 謹答金剛界疑問總來十條 (1 卷)		No. 2416 遮那業安立草 (13 卷)	仁 空 撰
No. 2407 隨要記 (2 卷)	皇 慶 撰	No. 2417 法華懺法 (1 卷)	
No. 2408 四十帖決 (15 卷)	長 宴 記	No. 2418 例時作法 (1 卷)	
(第76卷 續諸宗部 7)		No. 2419 遮那業學則 (1 卷)	覺 千 撰
No. 2409 行林抄 (82 卷)	靜 然 撰	No. 2420 奏進法語 (1 卷)	眞 盛 撰
No. 2410 溪嵐拾葉集 (116 卷)	光 宗 撰	No. 2421 念佛三昧法語 (1 卷)	眞 盛 撰
		No. 2422 眞迢上人法語 (1 卷)	
		No. 2423 眞荷上人法語 (1 卷)	
(第77卷 續諸宗部 8)		No. 2424 眞朗上人法語 (1 卷)	

No. 2371『漢光類聚』4 卷は『天台傳南岳心要鈔』『天台南岳心要見聞』『天台傳南岳心要見聞書』または『漢光鈔』とも言われる。南岳慧思大師が天台智者大師に傳授した『心要』の見聞乃至は聞書の意味である。これを『漢光類聚』とするのは著者忠尋が十禪師權現からの夢告によつて名づけたということであるが、中國から伝えられた心要の教光の意味なのか、當時盛行した北斗信仰から、漢天の光即ち本極法身を指すものか詳かでない。南岳大師の『心要』というの『略義』『略文』と共に三部の祕書といわれ共に南岳のものではなく、『略義』『略文』は實在しない。それは『摩訶止觀』の抄出で、端的に言えば『摩訶止觀』の章安の序文にある圓頓者(章)を略止觀とし、隨自意三昧を重んじようとする意圖をそれに托そうとしたものであろう。『心要』の見聞が『漢光類聚』であるように、『略義』の見聞が『法華略義見聞』(日本佛教全書16)で、『略文』の見聞が『法華文句要義聞書』(〃)であり、三部何れも『漢光類聚』と呼ばれることがあつた。けれども一般には『心要見聞』が『漢光類聚』と呼ばれている。『心要』が南岳慧思のものでないと同様にこの『漢光類聚』もまた忠尋(1065~1138)のものではない。それは日本天台恵心流に屬する靜明(~1268~1282~)かその周圍の者の著作である。本書は傳教大師に名を借りた『修禪寺決』と深い關係にあり、多くそれによつてゐるが、取澄の入唐求法において道邃・行滿二師からの相傳を宗旨・宗教二法門別傳とし、これによつて恵心・檀那の二流が分かれたとする二師別傳説をいう最初のものである。更に四重興廢の教判も本書によつて明瞭に紹介された。本覺法門のまとまつた口傳見聞書として最も早い文獻である。本書の底本は慶安2年(1649)の刊本であるが、ほかに西教寺正教藏の二卷本、叡山文庫藏の一卷本、日光天海藏の一卷本があり、日光天海藏本では『萬法含藏鈔』と名づけら

れてある。

No. 2372『天台眞言二宗同異章』1巻 本書は寶地房證眞（～1131～1220～）が叡山において文治4年（1188）執筆したものである。密教事相の流行が密勝圓劣の所論を産むようになり、比叡山の天台宗内に最澄の理念に反するような主張が見られるようになっていたので、天台宗祖の圓密齊等の趣旨を誤まつてはならぬとし、二教義齊の義を文理の上から更に外難を遮する側からの二門により論じたものである。文理に於ても外難を遮する段においても教行人理の四門を立て問答體によつて解答を與えている。台密事相が一山を風靡する中であつて、天台法華の宗旨を高揚したもので、『三大部私記』もまたその旨をふまえているが、特に密教について論じたものは證眞において本書が唯一のものと言える。本書に於ては他家としては主として空海の『十住心論』を出し、高麗覺苑の『大日經疏演密抄』を用い、自家としては一行の『大日經義釋』の立場に立ち、最澄の『依憑集』圓仁の『金剛頂經疏』『蘇悉地經疏』圓珍の『講演法華儀』『授決集』徳圓の『唐決』安然の『教時義』のほか覺運、皇慶等を引き、台密者の側を眞言宗と表現し、特に三密行相有相方便を主張し、達磨の禪を四種三昧中の常坐の一行に攝し眞言行を非行非坐三昧に攝屬せしめようとしている。

No. 2374『宗要柏原案立』6巻 は柏原成菩提院の開祖貞舜（1334～1422）の集録になる宗要論義書である。貞舜は比叡山において貞濟について學び西塔寶幢院に住し、應永年中柏原に成菩提院を開き常に圓頓の法を説く。當時は論義書の集成時代で、文永11年（1274）から始められた松林坊政海の『政海類聚鈔』80巻、正和2年（1314）から談じられた寶樹頼増の『宗要寶樹坊』18巻、元亨1年（1321）惠鎮上人談の『宗要白光』9巻、正慶2年（1333）光聚坊舜増（實源カ）談の『宗要光聚坊』17巻、貞和3年（1347）靜範所談の『宗要集聞書』6巻、永和元年（1375）聞書された『宗要智見鈔』10巻等が相前後して制作されている。これらの中『寶樹坊』『光樹坊』『白光』『智見鈔』は檀那流に屬し、『政海類聚鈔』『宗要靜範』は惠心流に屬する。本書もまた惠心流に所屬する。宗要算題の配列は本書においてよくまとまり、『台宗二百題』がその大半を依用している。但し二乗部においてのみやや順位を訂正し「三佛出世」「分身儀式」「三教地位」「四依供佛」「初分二十空」「四依對判」の六題については、省いて可なりと雖も古來の算なるが故に三重を省略して宗要の末に列ずるとしてある。それにしても『台宗二百題』における難答の文は、ほとんどが本書を参考にしているものと見られる。

貞舜の論義についての研鑽の跡は、現存する幾多の草稿によつて知ることが出来るが、殊に嘉慶2年（1388）12月20日惠鎮上人の『白光』を書寫し、檀那流の算題順位を惠心流のそれに編成變えたようである。また貞舜には應永11年（1404）『三百帖見聞』10巻があり同9年69才にして『七帖見聞』13巻を完成している。貞舜の傳として『圓乘寺開山第一世貞舜法印行狀』1巻がある。

本書の底本は正保2年（1645）の刊本であるが、ほかに寛永9年（1632）の刊本もあり、日光天海藏、眞如藏、曼殊院等にも寫本が所藏せられている。

No. 2375『天台圓宗四教五時西谷名目』2巻 は一般に『西谷名目』と略稱され、天台宗學に志す者は『四教儀』に先立つて反覆暗誦を強いられたという。恵心僧都作とせられる『四教五時略頌』の註釋であり、四教五時の一々についてその字義と内容を、最初心の者を對象にし、しかも古來からの傳統的釋義に立脚して、懇切に解説したものである。貞舜の『天台名目類聚鈔』(七帖見聞)や尊舜の『津金寺名目』等と共に比叡山の谷々の初學者の勉學に資するために工夫されたものに違いないが、『西谷名目』の場合は諦觀の『四教儀』に影響されることなく、また口傳的色彩を見ないところに特色がある。作者については未だ決定的な所論なく、寶地房證眞、蓮實坊勝範、西谷寶樹坊、蓮光等の名が挙げられる。本書は元來假名混じりの和文體であつたものが慶安3年(1650)の刊本では漢文體となり、それが今の底本となつてゐる。

No. 2382『新學行要鈔』1巻 は廬山寺の實導仁空(1309~1388)が、延文2年(1357)江州敏滿寺佛土院に於て、かつて西山三鈷寺で集録したところを本文と校合して添削し、初學のための要用としたもので、假名菩薩比丘恵仁と署名するところによつても明らかであるように、傳教大師最澄の大戒運動の復興を志したものである。この中には(1)六念法(2)衣鉢法(3)說淨法(4)時食法(5)說戒法(6)與欲法(7)安居法(8)自恣法(9)出家法(10)化俗法の十目が説かれる。更に(5)說戒法の裏書として、自ら作るところの「梵網五十八戒畧頌」「對首心念說戒法」を出し、(7)安居法の裏には「過七日受日法」「受三十九夜法」「事訖法」の三種受日法を置き、(9)出家法の裏には「別授菩薩戒請師法」「同乞戒法」を列する。最後に『教院雜事略問答』が加えられている。實導仁空上人はまた恵仁ともいい、圓應國師と勅諡された。中務少輔藤原爲信朝臣の長男で、はじめ比叡山において顯密の學を修め、後大原來迎院にあつた示導康空の門にはいつて圓頓戒を受け淨土教をも受けた。後示導と共に西山三鈷寺に移り、以後20年に及ぶ間示導から淨土教その他を學んだ。示導の後、澄空示淨を経て三鈷寺を襲いだが、同門明導の寂後その廬山寺をも董した。西山法流に屬する仁空であるから『西山上人緣起』6巻『西山三鈷寺傳持次第』等の著作があるのは當然であるが、その唱えるところは圓密戒淨の四宗であり、『教院雜事問答』には山家の古風に准じて小律の偏袖を用いないのが一衆のあり方であり、叡岳の古風に准じ學ぶところは山家大師の行儀であるといつて天台教觀を傳える教院を考えている。

No. 2383『菩薩圓頓授戒灌頂記』1巻 重授戒灌頂は黒谷求道房恵尋(~1249~1289~)の頃から姿を現わしたように考えられる。顯密融合の思想から生まれた受戒形式であるが、爛熟した本覺法門が戒家という一家の中で展開した特殊な儀禮である。師弟を前佛後佛として受戒傳授することが多寶塔中の相傳であると考えるのがこの儀禮の中心思想になつており、一般的な圓頓受戒の後重ねて傳授するから重授という。元來法華中心の信仰であるものを、灌頂という密敎の作法と合體させたのであるが、特に眞言敎でなくあくまでも顯敎灌頂であることを主張しながら、毘盧遮那佛からの次第相傳を説明しているのが特徴である。恵尋一恵顯一興圓と傳えて漸くその存在が明瞭になるが、興圓は恵鎮に傳え、これより元應、法勝の二流に分かれ

る。本書によれば恵鎮が道光上人光宗に戒灌頂を傳えた後20餘年斷絶していたが、貞和5年(1349)7月25日恵鎮は惟賢にこれを授けたという。後光宗を元壘寺流の祖とし、惟賢を法勝寺流の祖とする。

本書は惟賢の作るところである。惟賢は普川國師、慈源上人、または景昌上人ともいわれる。足利尊氏の二男といわれ、のち鎌倉寶戒寺の開祖ともされる。惟賢は恵鎮から重受戒した後11年を経て延文4年(1359)9月下旬それまで口決されてきた戒義と自らの意緒を、自身の廢忘に備えまた弟子たちに残さんがため記録にとどめたと述べている。従つてそれは授戒灌頂の戒儀ではなく、その意義について述べたものである。内容は(1)名字の事(2)道場莊嚴の事(3)正覺壇の事(4)師弟入壇の事(5)傳戒詞句の事(6)三重血脈の事の6項目で、そのあとに貞治3年(1364)2月11日相州圓頓寶戒寺で記した「法界の事」等が付加されてある。恐らく『菩薩圓頓授戒灌頂記』は上の6項目のみであつて、他はのちに添加されたもの乃至は裏書であろう。既に古く『授一乘菩薩比丘戒灌頂受法私記』が慈忍和尚の名をもつて伝えられている。それが慈忍和尚のものとは信じ難いけれども、戒灌頂の作法は惟賢に先立つて確立していたに違いないので、戒義のみは口傳されて來たものを筆端にのせたものである。(1)の「名字の事」には灌頂は眞言祕教に限ることなく、圓頓戒法は顯教であつて顯教の所談を超え、密教に非ずして威儀を備えるもので、前佛の受職の光をもつて後佛の頂を照らす意であり、無垢三昧即ち戒法三昧における作法であるという。(2)「道場莊嚴の事」には、大壇、金山、一二の聖經、兩卷の祕要等道場における諸具に關する口傳を説いている。中に就いて一二の聖經とは『法華經』『梵網經』の兩經、兩卷の祕要とは天台の『梵網菩薩戒經義疏』『觀心十二部經義』を指している。これは『一乘戒建願記』に出すところであり、『圓頓戒脈譜口訣』下には一二の聖教とは『梵網菩薩戒經』と『法華經』安樂行品とであり、兩卷の祕要とは『菩薩戒經義疏』を指すとし、『圓戒膚談』1には『脈譜口訣』の説を正しとし、その他の説は依用し難しとするのであるが、『觀心十二部經義』そのものにも問題があると同時に、これが戒灌頂の特殊な相傳である。(3)「正覺壇の事」には、既に三羯磨終つて三聚淨戒を得、六即成佛を窮むるも、それは始覺迹門の化儀であり、正覺壇においては本門無作の成佛を明かすとして、自身の當體が涌出の寶塔であり、多寶塔は大日自證の六大、衆生本有の五陰であるとする。従つて五百億塵點劫は五住の煩惱を指すと教える。(4)「師弟入壇の事」においては、師資同坐して三箇の合掌によつて迷悟不二、師資冥合を表わし、多寶塔中の二佛同坐冥合を實現するという。(5)「傳戒詞句」には、壽量品の「如實知見三界之相」の句を傳戒の證文とすることを説き、(6)「三重血脈」には、第一重は初重相傳戒の戒血脈、第二重は『一乘戒建願記』における山家大師の發願文、第三重は方便品の「佛之知見」の一語をもつて具足道とする血脈であるとする。第6以後の添付の文には誤字脱行多く、正確に文意を把握し難い。「法界の事」は恐らく「結界の事」の誤りである。

本書の底本は田島德音師所藏本のようにであるが、その原本は元應寺流を受け繼いだ坂本來迎寺所藏本と同系のものらしい。(6)の後に一二三と列するものは來迎寺本には裏書と注されてお

り、「傳戒詞句」の裏書に當るらしい。なお法勝寺流の後である西教寺の所藏本では、この『灌頂私記』は三巻とされている。

No. 2408『四十帖決』15巻 本書は大原僧都長宴（1016～1081）が、谷阿闍梨皇慶（977～1049）に13年間隨從して、四度、諸尊法、灌頂等についての不審をただし、これを集録したものである。皇慶は台密について、慈覺一長意一玄昭一智淵一明靜一靜眞一皇慶と繼紹し、慈覺七代の家嗣とされるが、かつて鎮西に巡錫して東密の阿闍梨景雲に學んで、弘法大師の寶瓶を受けたとさえいわれる台東兩密俱傳の阿闍梨であり、台密においては五大院安然が教相の大成者とされるのに並んで、事相の大成者とされる。のち覺超を川流の祖とするに對して、皇慶を谷流の祖とする。長宴は慶命、寬圓に師事し、のち皇慶に台密の祕奧を傳えた。皇慶が生前自ら筆を執つて著作をしなかつたから、その口述を記録したのが『四十帖決』であると説明されるところもあるが、皇慶抄出や池上作とされるものも決して少なくないのであるから、そうした説明は當を得ているとは考えられない。

本書には皇慶の事相の大體と、僅かではあるがその教相上の見解をも知る記事を見ることが出来ると同時に、長宴自身の説をも「私云」に見られる。特に法性房尊意の『胎藏記』や、清涼房玄昭の説など多くのものが挙げられるほか、皇慶の受學が台東兩密に亘る故もあつてか、源照らの東寺關係者ほか廣く紹介に及んでいる。本書には長元年中（1028～1037）と記載する聞書があるから、長宴20才以前の若年時の受法から皇慶の死の直前にまで及んだ聞書で、皇慶が6年間丹波の池上に假寓した時にも、長宴は時折出向いて教えを受け續けたらしい。『阿婆縛抄』の「當流代々書籍の事」によれば、『四十帖決』が聞書の發祥であろうと言う。のみならず本書を「台密三流の總口決」または「三流の親文」と呼んでいる。その理由は、皇慶の門雙嚴房頼昭は穴太流の祖とされ、長宴の弟子良祐は三昧流の祖、更に良祐の門相實は法曼流の祖であるから、穴太、三昧、法曼三流の事相はすべて『四十帖決』を基としているからである。長宴から本書を傳えた頼昭は、天喜6年（1058）正月晦日これを書寫して20帖にまとめ、良祐を経て傳えた相實は、これを15巻に編成した。いま大正藏所收のものは15巻の相實本である。この中に僅かに見られる皇慶や長宴の思想は所詮顯密二教是一を建前としている。従つて釋迦大日一體、曼荼羅即ち十界互具の顯現、これまた『摩訶止觀』の觀不思議境であるとし、常に天台教義に立つて密教を理解している。それ故顯教は諸法の相性を分別し、密教はその修すべき方法を説くものと説明し、事相の淺事を以つて深理を顯わすのが速證の道であるとする如きは、事相方便とする説に傾いている。本書第13巻には、寬德3年（1046）4月16日谷御房において再度の『大日經疏』傳授のことが記され、そこには傳授の儀式的略作法が載せられている。その時の聽衆として、圓融房良眞僧都、無動寺良圓僧都、定心院覺尋阿闍梨、理智房廣算内供、井坊安慶少僧都そして長宴が列している。更に相承次第として禪念律師一仁眷一長慶一千通院一禪覺持經一皇慶一長宴とある。曼殊院藏の『祕要抄』がまたこの重受大日經疏の記録で、聽衆に圓融房、安慶、長宴が挙げられ、相承次第も同様に記している。